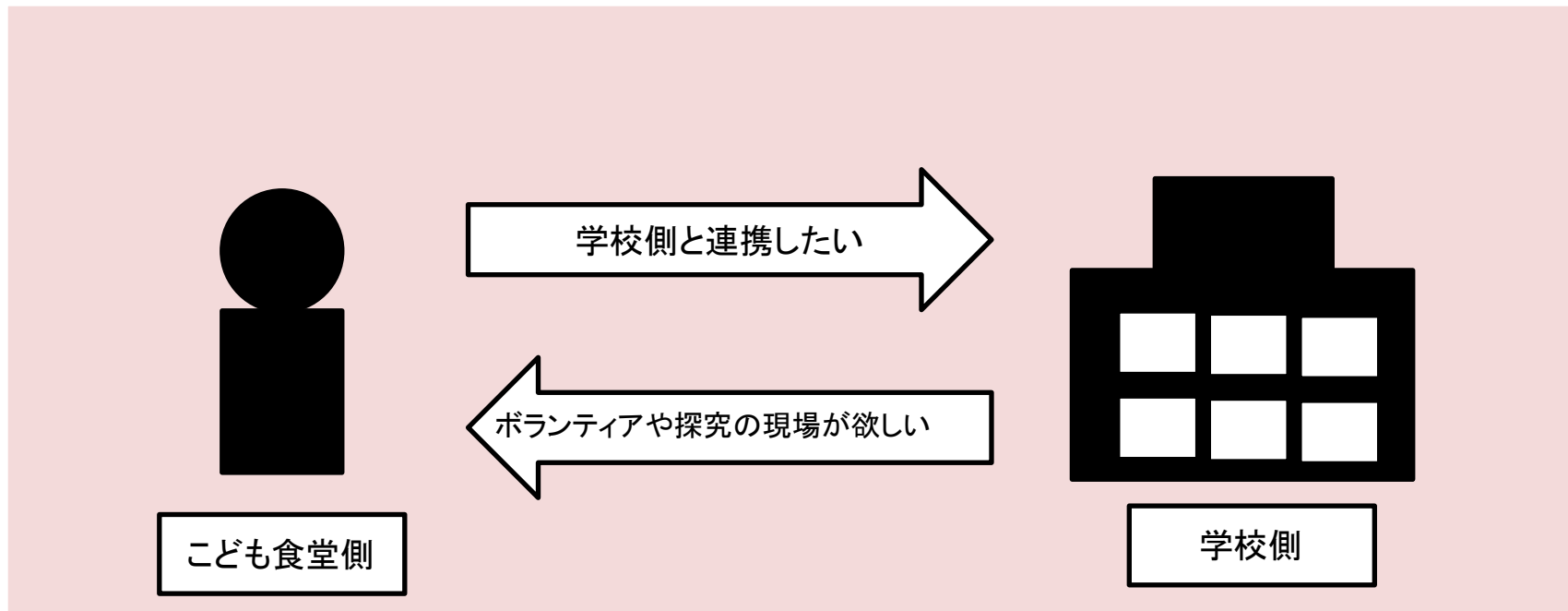


2024年度「こども食堂・学校 架け橋プロジェクト」 事業報告会 報告資料



ふくしまこども食堂ネットワーク事務局

① 今回の取組みに至った背景・課題意識



両者ともネットワークがなく、接点づくりができていない

② 取組みの目的

「探究×こども食堂」をテーマに、以下のステップの構築を目指して、学校との連携を図る事業を実施。

- (1) 高校生がこども食堂にボランティアとして関わる
- (2) 高校生がこども食堂と連携して、こども食堂で、料理の提供・居場所としてのコンテンツづくりの企画・提供
- (3) 高校生が、世代が変わっても、こども食堂の運営に代わる代わる携わる仕組みづくり

そのための仕組みづくりのプロトタイプを、福島県の大きな地域分類である「会津・中通り・浜通り」で学校および高校生と共同でこども食堂を実施することを目的に事業を展開。

③ きっかけ・経緯・接点づくり

■きっかけ

・ネットワークの共同代表および事務局スタッフが高校の探究学習の授業で複数校関わっていたこと、校内の居場所づくりのカフェ事業を受託していたことから、高校側とのネットワークがあり、本事業を展開

会津地区：学校内で本ネットワークの共同代表が学校内の居場所づくりの事業を受託

中通り：事務局スタッフが私立高校で5年間、外部講師として探究学習の授業を担当

浜通り：事務局スタッフのネットワークで浜通りの高校の中で探究学習の支援および居場所づくりを行っている団体に伝手があり、相談

■接点づくり

・県内で行われている居場所づくりの団体とのネットワークづくりや探究学習の外部向けに公開されている報告会に積極的に参加するなど、ネットワークを構築

④ 実施対象

■対象とした学校

- ・福島県立会津西稜高校(会津)
- ・学校法人尚志学園 尚志高校(中通り)
- ・福島県立ふたば未来学園高校(浜通り)

■連携したこども食堂

- ・NPO法人寺子屋方丈舎・NPO法人OHANA(会津)
- ・ぼんじょいの会(中通り)
- ・こども食堂ドリーム(浜通り)

⑤ 実施スケジュール

10月 連携するこども食堂の選定

11月 参加する生徒の募集

12～1月 実施するこども食堂を高校生と共に企画
(月1～2回程度、高校生とこども食堂が会議)

1～3月 こども食堂の実施

⑥ 実施内容の概要(会津地区)

- ・2025年3月25日～29日の5日間、こども食堂と高校生が毎日昼食を提供するこども食堂を実施ところ会津若松市飯寺「こどもの家」
- ・約130食を地域のこども(小学～中学生)に提供



⑥ 実施内容の概要（中通り地区）

- ・2025年1月18日に、地元こども食堂と高校生が連携して企画
 - ・30名以上のこどもと保護者が参加した。
 - ・当日のプログラムとして、以下のプログラムを実施した
- a) 地元こども食堂による料理の提供。調理の間、高校生がダンスワークショップ、ダンスを活用しただるまさんが転んだ、新聞紙リレーなどのこども達と交流するワークショップを実施
 - b) 参加者全員で会食

⑥ 実施内容の概要(中通り地区)



⑥ 実施内容の概要（浜通り地区）

- ・2025年3月26日に、ふたば未来学園高校の調理室を借りて、広野町の児童館や浜通りのご家庭100名が参加するこども食堂のプログラムを、地元こども食堂と高校生が連携して企画。

- ・当日は以下のプログラムを実施した

- a) 地元こども食堂による料理の提供。調理の間、高校生が学校内で宝さがしワークショップを実施
- b) 参加者全員で会食

⑥ 実施内容の概要(浜通り地区)



⑦ 取り組みの成果・アウトカム

■当初期待していた効果と実態

○対学校向け・高校生向け

- ・地域との協働の可能性を感じ、連携強化の動きが今後も行われている状態
- ・そのために、地域に学校の間を開放できている状態

地域のこども食堂の担い手として、今後も参加してくれている状態

- ・自分たちだけでなく、周りの友人や後輩もこども食堂に巻き込んでくれている状態
- ・地域との協働、その中でこども食堂の重要性の理解が深まっている状態

⇒高校生が継続してボランティアとして関係性を続ける他、今後の引継ぎを想定して、後輩にも参加を呼び掛けるなどの積極性を見られた。また、学校教員がこども食堂の内容をイメージできていないことから、一緒に参加することを通して、こども食堂の理解につながった。将来また地域に戻ってきたくるような、関わりを地域の中に見つけるきっかけになった。

⑦ 取組みの成果・アウトカム

■当初期待していた効果と実態

- ・〇対こども・こども食堂向け
- ・地域に家と学校以外での場所があると感じてもらえている状態
- ・家族以外で高校生含む地域の人との交流に楽しみを感じてもらえている状態
- ・将来的に、自分がこども食堂含む地域の担い手として関わりたいと思ってもらえている状態

⇒多くの団体が学校側との連携を期待していたが、接点がないことにより、協働がなされていなかった。今回、協働することで、こども食堂だけでなく、地域の教育委員会にも協力を働きかけるなどの波及効果が生まれている。また、学校見学を希望している父母も多く、そうした点での接点づくりにもつながった。

〇対地域向け

- ・多くの人々がこども食堂の理解と地域での協働の必要性を感じている状態

⇒浜通りでは、春休み期間の実施のことから、児童館が春休み中のプログラムとして協働したいという相談があり、実際に50名以上の児童館の生徒が今回のプログラムに参加した。学校の枠や子ども会にとらわれない、新しいこどもと地域のコミュニティー形成ができた。今後、防災、高齢者支援等につなげる広がりが生まれた。

⑧ 実施所感:こども食堂と学校の連携における壁とカギ

■課題点と解決策

(1) 学校側のメリットがないと生徒を関わらせづらい

⇒探究学習や受験における総合選抜でボランティアやSDGsに関する事項に興味があるのは、事実

⇒都合よく生徒が使われると思われられないためにもボランティアマネジメントの強化が必要

(2) 学校・教員側でこども食堂を体験している人が少なくイメージが付きづらい。

そのため、生徒を関わらせづらい

⇒実際に参加してもらうことでイメージをつけてもらうかどうかのカギ

(3) 学校側は学校外のことについては動きづらい

⇒こども食堂側がしっかりと団体説明をして、積極的に働きかけることが必要

⇒まずはチラシを掲示してもらうなど、直接アクションをする必要がある

(4) 高校生と一緒に考えていく姿勢が必要

⇒熱意がある高校生が来たからといって、自発的に企画やアクションを提案してもらえる訳ではない

⇒高校生に丸投げするのではなく、高校生と一緒に活動するプロジェクトスタッフとしてみなして、

一緒に考えていく姿勢が必要

⑨ 今後への展望や希望

■今後の展望

- ・多くの高校生が探究活動の一環として実施したことから、後輩の探究活動として活動してもらうよう、生徒含め働きかけを行う
- ・協働後も高校生がこども食堂のプログラムに参加しており、他の生徒への口コミによる呼びかけが行われている
- ・学校だけでなく、児童館との連携も生まれるなど、地域側からのニーズもあり、引き続き、学校での実施をしていきたい